

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: Lenny Kravitz @ Tower Record NY in 1995)

《ニューヨークで見かけた有名人》

ロバート・デ・ニーロやマドンナをはじめ、芸能関係だけでなく、スポーツ関係やビジネス界、政界などマンハッタンに住んでいる有名人は数多く、世界各国からお忍びで訪れる有名人も合わせれば、あの狭い島内で有名人を見かける頻度は東京よりも遥かに高いかもしれない。

このコーナーで度々触れてきたように、タイムズ・スクエアに程近いミュージカルの劇場が並ぶレストランでウェイターをしていたこともあり、レストランにはかなりの数の有名人が訪れていた。個人的にミュージカルの世界はあまり知らなかったのですが、ライザ・ミネリくらいしか気付かなかったが、その世界ではかなりの有名人が日常的にレストランに足を運んでいたはずだ。

映画俳優でも自分が働いていた当時、一度だけロバート・デ・ニーロが食べに来たことがあったが、残念ながらその日は出勤日ではなく生のデ・ニーロを見ることができなかった。その他、映画『ゴーストバスターズ』でお馴染みのビル・マーレイは常連で、クリスチャン・スレーターやモデルのクラウド・シファー、真向いの劇場でショーをやっていたプロ・マジシャンのデビッド・カッパーフィールド等が来たこともあった。日本人の俳優や芸能人が訪れることが多かったが、この場では割愛させてもらう。

ミュージシャンでは今も変わらず常連さんのジャズ・ピアニストの大御所パリー・ハリスをはじめ、ジャズ系のミュージシャンが意外に多く、既に亡くなってしまった名ドラマーのマックス・ローチも時々来ていた。その他、クリスチャン・マクブライド (b) やブライアン・ブレイド (ds)、ジョン・スコットフィールド (g)、ゲイリー・ピーコック (b)、長年ニューヨークを拠点に活動している日本人のジャズマンも多く訪れるなど、本場のジャズの世界に憧れていた自分にとってはワクワクする瞬間が多かった。

ここまでは自分がお世話になったレストラン絡みだが、有名なミュージシャンに関しては、偶然見かけたというわけではないが、世界の中心都市マンハッタンならでは、日本ではあまり見られない光景もあった。今でも時々やっているのかもしれないが、あのレニー・クラビッツがダウントウンのタワーレコードで新作リリースのキャンペーンの一環だろう…サイン会を開いたことがあり、レストランの仲間と長蛇の列に並んで順番を待ったこともあった。また、アッパー・イーストにあった HMV では自身のオーケストラを結成してアルバムをリリースしたばかりのブライアン・セッツァーが店内で演奏した後にサイン会を開き、迷わずその場に駆けつけた。

スポーツ界では、たまたま訪れたジャズ・クラブで3年間の服役後1995年に仮釈放され、翌96年に再びプロ・ボクシングの世界統一王者になったマイク・タイソンが来ていたことがあった。屈強なボディー・ガードや取り巻きなど10数人ほどに囲まれていて本人の姿はちらっとしか見ることができなかったが、本場のスーパースター級の人物の待遇を目の当たりにした瞬間でもあった。

余談だが、ニューヨークのジャズ・シーンに関して、日本のジャズ・クラブではほとんど見られない光景だが、人気度や大御さん自身に関係なく演奏後に客が飲んでいるバー・カウンターに普通に一杯ひっかけにやって来るジャズマンも多く、タイミングさえ間違わなければ普通に話しかけることもでき、当時は20代前半とまだ若く、恐れを知らないミーハーな部分もあったので「死なれてしまった後で後悔しても始まり、この機会を逃してはならない！」と大御所のジャズマン達には恥を忍んでサインをもらうことも多かった。上述したマックス・ローチ (ds)をはじめ、本誌由来のリロイ・ヴィネガー (b) は勿論、ミルト・ヒントン (b)、レイ・ブラウン (b)、パーシー・ヒース (b)、アート・テイラー (ds) 等、今は亡きジャズの巨人達の直筆のサインはかけがえのない宝物となっている。

そして、あれはある年のクリスマス・イヴの日の午前中だったが、ウエスト72丁目からセントラル・パークを横断してイースト・サイド側に渡ろうとセントラル・パーク内の通りを歩いているとオノ・ヨーコが向こうから歩いて来た。ジョン・レノンの名曲「ウーマン」のプロモーション・ビデオでジョンとヨーコがセントラル・パークを歩く映像のイメージが強く残っていたこともあり、一瞬現実離れた感覚に襲われたが、あのトレードマークともいえる大きなサングラスをかけていたので数十メートル先からでもオノ・ヨーコだと分かった。その日は平日だったこともあり、通りには自分とオノ・ヨーコの横にもうひとり白人の初老の男性が居るだけの3人だけで、数十秒後ほんの数メートルの距離ですれ違った。ジロジロ見るわけにもいかなかったが、何とも不思議な瞬間だった。

日本人に限らずニューヨークには様々な夢を抱きながら暮らしている人がたくさんいるが、たとえ偶然でも自分が憧れている有名人に出会ったり、有名人が放つ独特のオーラのようなものに触れたりすることで、更なる刺激を受けたり、高い目標が持てるきっかけになることは間違いのないであろう。そんな意味でもニューヨーク・マンハッタンという街にはもの凄いパワーが渦巻いている。